

「消費と物価に関するアンケート」結果

家電エコポイント制度終了後に消費低迷の懸念

「エコカー補助金」の終了と「家電エコポイント制度」のポイント半減などの政府の景気対策の縮小、長引く円高の影響などで、県内景気は緩やかな回復から足踏みの懸念が出ている。特に耐久消費財については、同制度変更前の駆け込み需要があったことから、その反動減の動きが出ている。また、長引く円高は輸入商品の値下がりにつながり、消費には良い効果と考えられる一方、企業の業績悪化を通じ、家計所得が減少するという悪影響も考えられる。このような消費・所得環境のなかで今後の消費動向を把握するため、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に消費と物価に関するアンケート調査を行った。

調査名	: 「消費と物価に関するアンケート」
調査時期	: 10年12月8日～10日
調査対象	: 滋賀県内の滋賀銀行本支店にご来店の女性
有効回答数	: 県内901名

【全体のコメント】

今回のアンケート調査によると、「暮らし向き」は低水準のまま横ばいで、今後についても足踏み状態の見通しとなった。「物価」については、前回（10年6月）に続き「上昇」が「下落」を大幅に上回った。県内でもデフレ傾向が続くなか、この半年間では猛暑による生鮮食品の高騰やたばこの大幅値上げなどがあったことから、生活に直結するものや購入頻度の高いものが高騰したため、実感として物価は高くなっていると感じる人が多くなったと思われる。

特別項目では、消費をけん引してきた「エコポイント制度」の利用状況について尋ねた。「家電エコポイント制度」については、「地デジ対応テレビ」が10年11月までにポイントを取得済みが60.4%となるなど、好調であったが、10年12月以降に取得予定は15.9%まで落ち込むなど、ポイント半減による反動減は避けられないと見込まれる。また、「住宅エコポイント制度」については、すでに利用した人と利用を検討している人を合わせて最も多かったのは、バリアフリー改修（8.1%）となり、エコ住宅の新築（8.0%）、窓の断熱改修（7.8%）が続いた。

【定例項目】

◆【暮らし向きDI】…厳しい状況のまま横ばい

現在の「暮らし向きDI」（「良くなった」「やや良くなった」と回答した合計から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した合計を引いた値）は前回（10年6月：-20.6）と横ばいの-21.0となった。また、「今後半年間でどうなると思うか」と尋ねたところ、今後の「暮らし向きDI」（「良くなる」「やや良くなる」と回答した合計から「悪くなる」「やや悪くなる」と回答した合計を引いた値）は-21.8で、横ばいとなっている。景気の先行きが厳しく、雇用・所得環境についても厳しさが増してきているため、暮らし向きは、低水準のまま足踏み状態にあるとみられる。

◆【物価D I】…デフレ傾向のなか、実感は“上昇”

「現在の物価は半年前と比べてどうか」との問いに対しては、現在の「物価D I」（「かなり上がった」「やや上がった」と回答した合計から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した合計を引いた値）は+35.4 となり、前回（+25.6）から+9.8 ポイントの上昇となった。前回は引き続き、デフレ傾向でかつ円高による輸入品の価格低下が考えられるなか、物価は上昇している実感が強い。この理由は、猛暑の影響による生鮮食料品の高騰やたばこの大幅値上げが考えられ、10年12月において生鮮食品やたばこの消費者物価指数（大津市）は、前年同月比でそれぞれ3.9%、38.6%上昇している。生鮮食料品を除く総合指数は20カ月連続で下落しているものの、日々の生活に直結しているものや購買頻度の高いものが高騰していることから、物価の実感は“上昇”となったと考えられる。

◆【耐久消費財の購入】…景気対策の縮小で大幅に悪化

「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」と尋ねたところ、「良くなる」と「やや良くなる」の合計が8.8%と、前回（17.5%）よりも-8.7ポイント低下した。一方、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は41.3%で、前回（25.5%）より+15.8ポイント上昇した。これは、エコカー補助金が10年9月に終了したことや家電エコポイント制度が同12月からポイント半減になるなど、景気対策の縮小により大きく悪化したためとみられる。

【特別項目】

◆家電エコポイント制度の利用状況について

…「地デジ対応テレビ」を中心に好調も、反動減に注意

「家電エコポイント制度の利用」で対象の3品目についてそれぞれの利用状況を尋ねたところ（図4）、エコポイント半減前の「10年11月までにポイント取得済み」では、地デジ対応テレビ（60.4%）が圧倒的に多く、ルームエアコン（21.0%）、電気冷蔵庫（15.1%）と続いた。地デジ対応テレビは、他の2品よりポイント還元率が高いことや、11年7月の地上波放送終了による切り替え期限が迫っていることなどで、好調となったと考えられる。また、ルームエアコンが2割を超えたのは猛暑の影響が大きかったと考えられる。また、ポイント半減後の「10年12月以降にポイント取得予定」では、地デジ対応テレビ（15.9%）、ルームエアコン（4.6%）、電気冷蔵庫（5.6%）と、どの品目でも3分の1から4分の1に落ち込んだ。実際に県内での、大型小売店販売額（全店ベース）の「家庭用電気機械器具」は、10年11月は駆け込み需要もあり前年比34.8%の大幅増加であったのに対して、同12月は0.4%の減少となった。また、家電エコポイント制度は、11年3月に終了を迎えることから、再び駆け込み需要が見込まれるが、同時に反動減も懸念され、この影響による景気の冷え込みには注意が必要だ。

◆住宅エコポイント制度の利用について…制度改正後の新設項目に期待

「住宅エコポイント制度の利用」について対象の7項目について尋ねたところ、「既に利用」としたのは、エコ住宅の新築と窓の断熱改修（ともに4.6%）が最も多く、バリアフリー改修（3.6%）、外壁、屋根・天井または床の断熱改修（3.0%）と続いた。

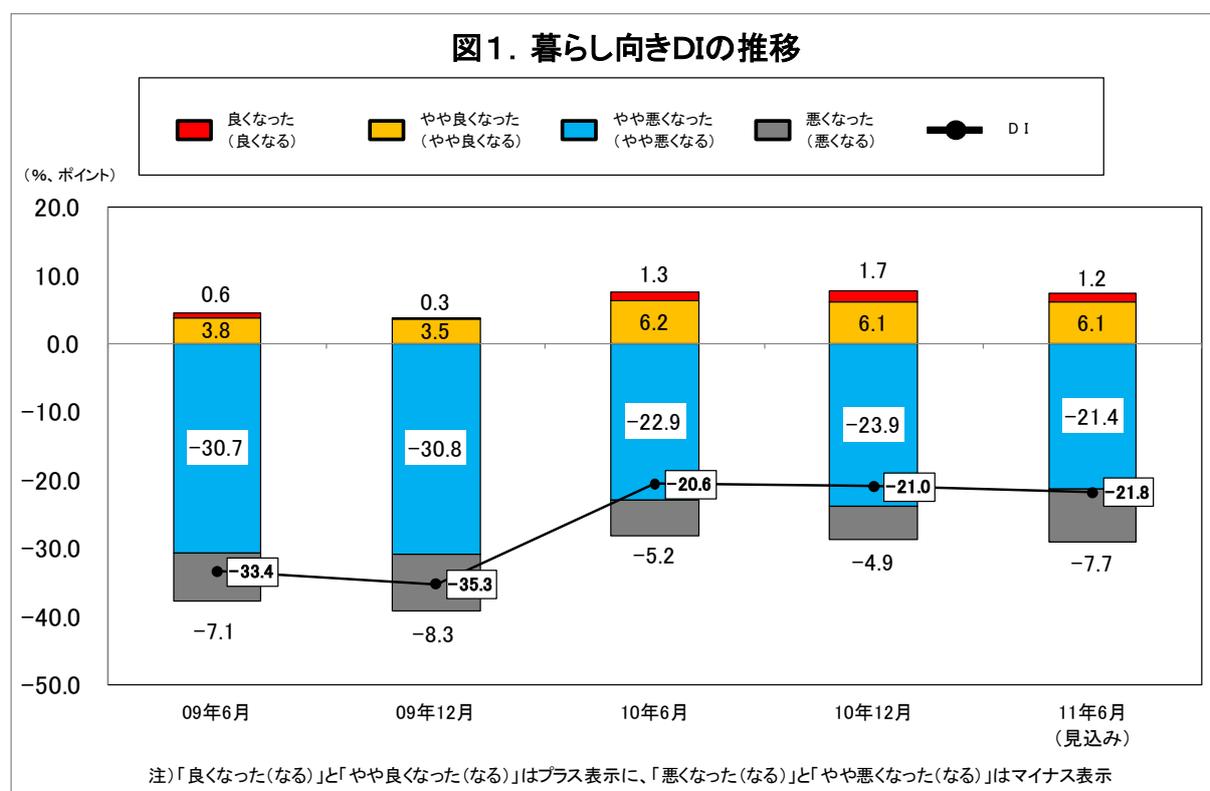
10年12月の制度拡大後の7項目で、「利用を検討」しているとしたのは、節水型便器（5.3%）と住宅用太陽熱利用システム（ソーラーシステム）（5.1%）が多く、新設された項目が上位となったことから、今後の更なる普及と経済活性化の要因となることに期待したい。「既に利用」と「利用を検討」を合わせた場合はバリアフリー改修（8.1%）が最も多くなった。

※分析結果および図表

【定例項目】

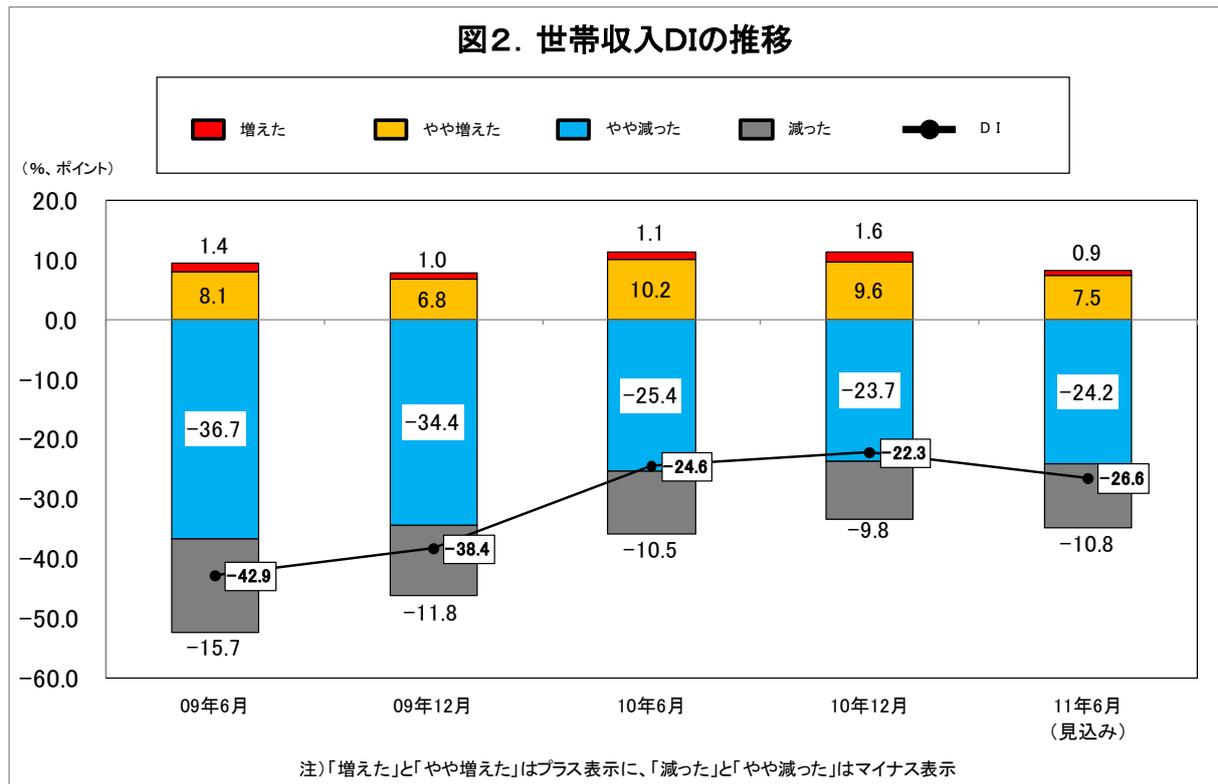
◆【暮らし向きDI】…厳しい状況のまま横ばい

「世帯の現在の“暮らし向き”は、半年前と比べてどうか」との問いに対して、現在の「暮らし向きDI」（「良くなった」「やや良くなった」と回答した合計から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した合計を引いた値）は前回（10年6月：-20.6）と横ばいの-21.0となった（図1）。続いて、「今後半年間でどうなると思うか」と尋ねたところ、今後の「暮らし向きDI」（「良くなる」「やや良くなる」と回答した合計から「悪くなる」「やや悪くなる」と回答した合計を引いた値）は-21.8で、横ばいとなっている。景気の先行きが厳しく、雇用・所得環境についても厳しさが増してきているため、暮らし向きは、低水準のまま足踏み状態にあるとみられる。



◆【世帯収入DI】…半年後には悪化する見通し

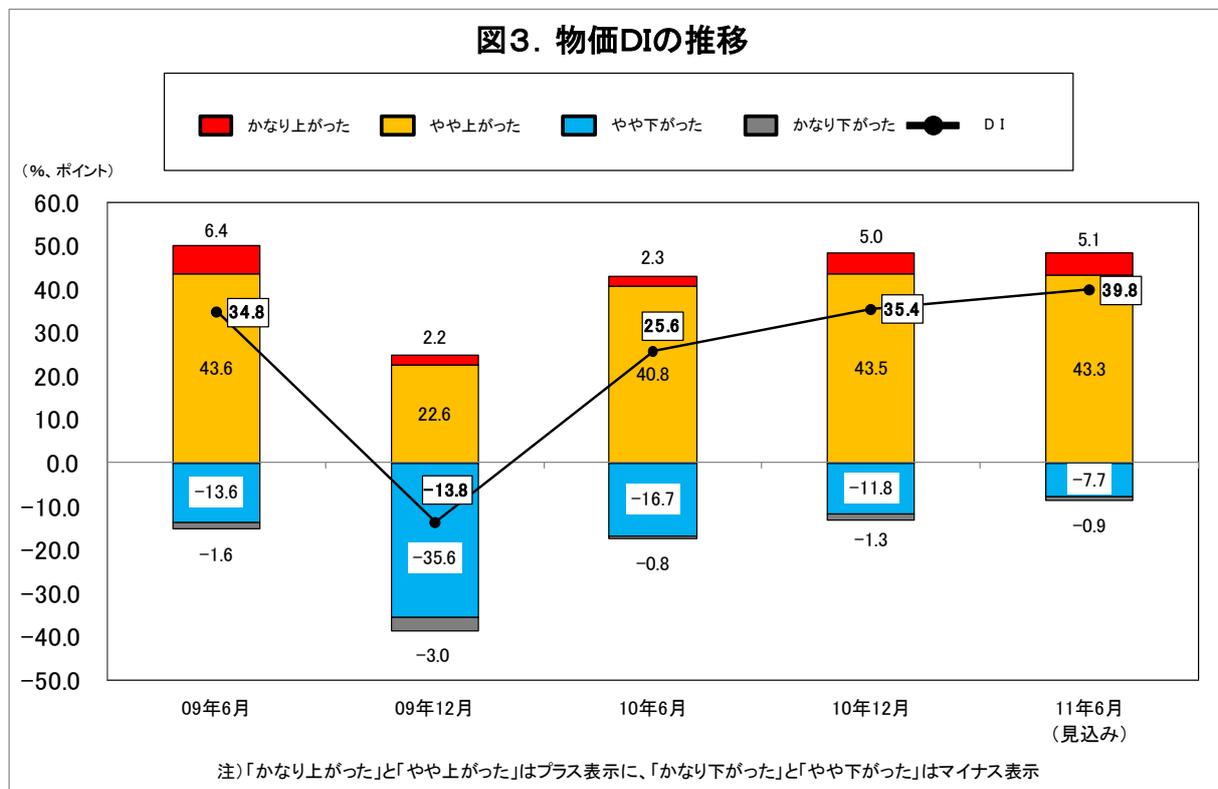
「世帯収入は、半年前に比べてどうか」との問いに対しては、現在の「世帯収入DI」（「増えた」「やや増えた」と回答した合計から「減った」「やや減った」と回答した合計を引いた値）は-22.3となり、前回（-24.6）から+2.3ポイントの上昇にとどまった（図2）。また、「今後半年間でどうなるか」との問いについて、半年後の「世帯収入DI」（「増える」「やや増える」と回答した合計から「減る」「やや減る」と回答した合計を引いた値）は-4.3ポイントの低下の-26.6となり、改善傾向から悪化に転じる見通しとなった。今後は、所得環境は厳しい状態が続くものと思われる。



◆【物価DI】…デフレ傾向のなか、実感は“上昇”

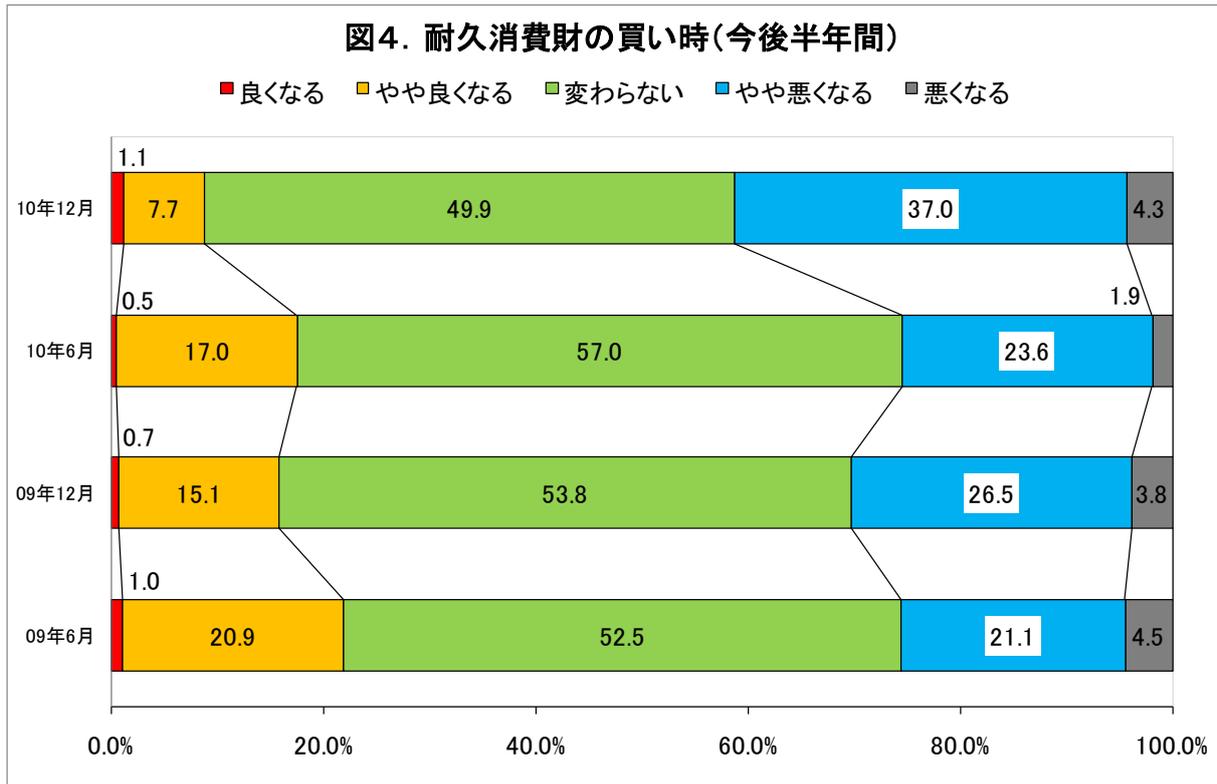
「現在の物価は半年前と比べてどうか」との問いに対しては、現在の「物価DI」（「かなり上がった」「やや上がった」と回答した合計から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した合計を引いた値）は+35.4となり、前回（+25.6）から+9.8ポイントの上昇となった（図3）。前回到引き続き、デフレ傾向でかつ円高による輸入品の価格低下が考えられるなか、物価は上昇している実感が強い。この理由は、猛暑の影響による生鮮食料品の高騰やたばこの大幅値上げが考えられ、10年12月において生鮮食品やたばこの消費者物価指数（大津市）は、前年同月比でそれぞれ3.9%、38.6%上昇している。生鮮食料品を除く総合指数は20カ月連続で下落しているものの、日々の生活に直結しているものや購買頻度の高いものが高騰していることから、物価の実感は“上昇”となったと考えられる。

「半年後の物価は今と比べてどうなるか」について、半年後の「物価DI」（「かなり上がる」「やや上がる」と回答した合計から、「かなり下がる」「やや下がる」と回答した合計を引いた値）は+4.4ポイント上昇の+39.8と、更に“上昇”の見通しとなった。



◆【耐久消費財の購入】…景気対策の縮小で大幅に悪化

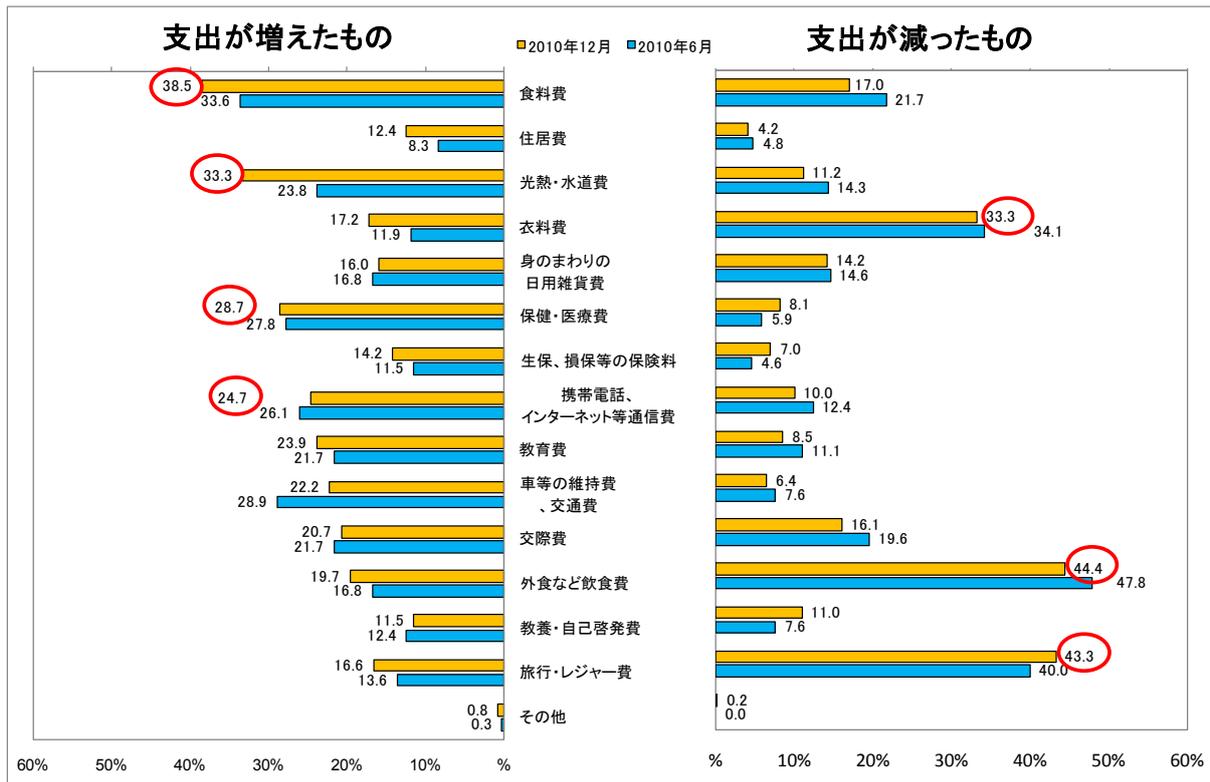
「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」と尋ねたところ、「良くなる」と「やや良くなる」の合計が8.8%と、前回（17.5%）よりも－8.7ポイント低下した（図4）。一方、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は41.3%で、前回（25.5%）より＋15.8ポイント上昇した。これは、エコカー補助金が10年9月に終了したことや家電エコポイント制度が同12月からポイント半減になるなど、景気対策の縮小により大きく悪化したためとみられる。



◆「支出」…「巣ごもり志向」が続く

「最近の世帯の支出が増えたもの、あるいは減ったものは何ですか」（複数回答）と尋ねたところ、支出が増えた項目として最も多かったのは、「食料費」（38.5%）で、「光熱・水道費」（33.3%）、「保健・医療費」（28.7%）、「携帯電話、インターネット等通信費」（24.7%）が続いた（図5）。一方、支出が減った項目は「外食など飲食費」（44.4%）が最も多く、「旅行・レジャー費」（43.3%）と「衣料費」（33.3%）が続き、前回と同様の順番となった。外出を減らし家のなかで過ごそうとする、いわゆる「巣ごもり志向」が続いていると思われる。

図5 支出の増減

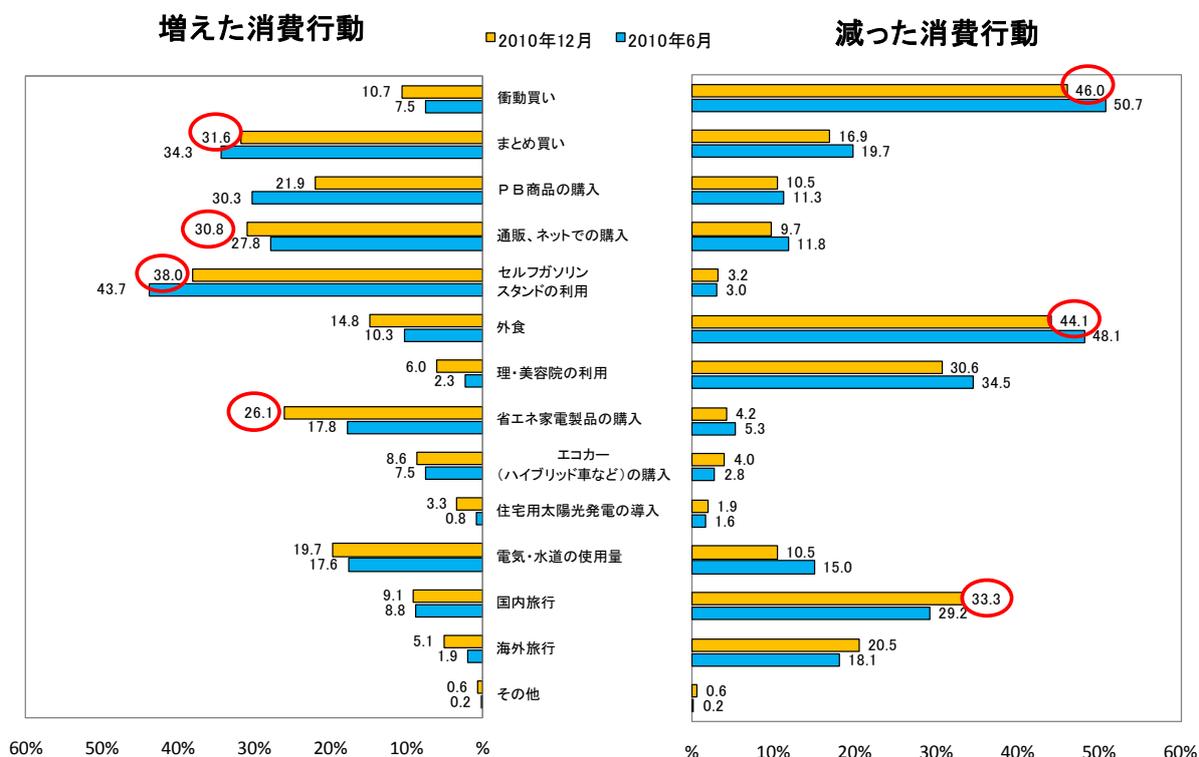


◆「消費行動」…節約の意識は依然高い

「最近の消費行動に変化はありますか」（複数回答）と尋ねたところ、増えた消費行動としては、前回と同じく「セルフガソリンスタンドの利用」（38.0%）が最も多く、「まとめ買い」（31.6%）、「通販、ネットでの購入」（30.8%）が続いた（図6）。また、4番目に「省エネ家電製品の購入」が26.1%で、前回（17.8%）より+8.3ポイント上昇している。これは、家電エコポイント制度の影響が大きかったためと考えられる。

反対に、減った消費行動として「衝動買い」（46.0%）が最も多く、「外食」（44.1%）、「国内旅行」（33.3%）が続いた。これは、支出と同様に「巣ごもり志向」が続くとともに、節約の意識が依然高いためだと考えられる。

図6 消費行動の増減

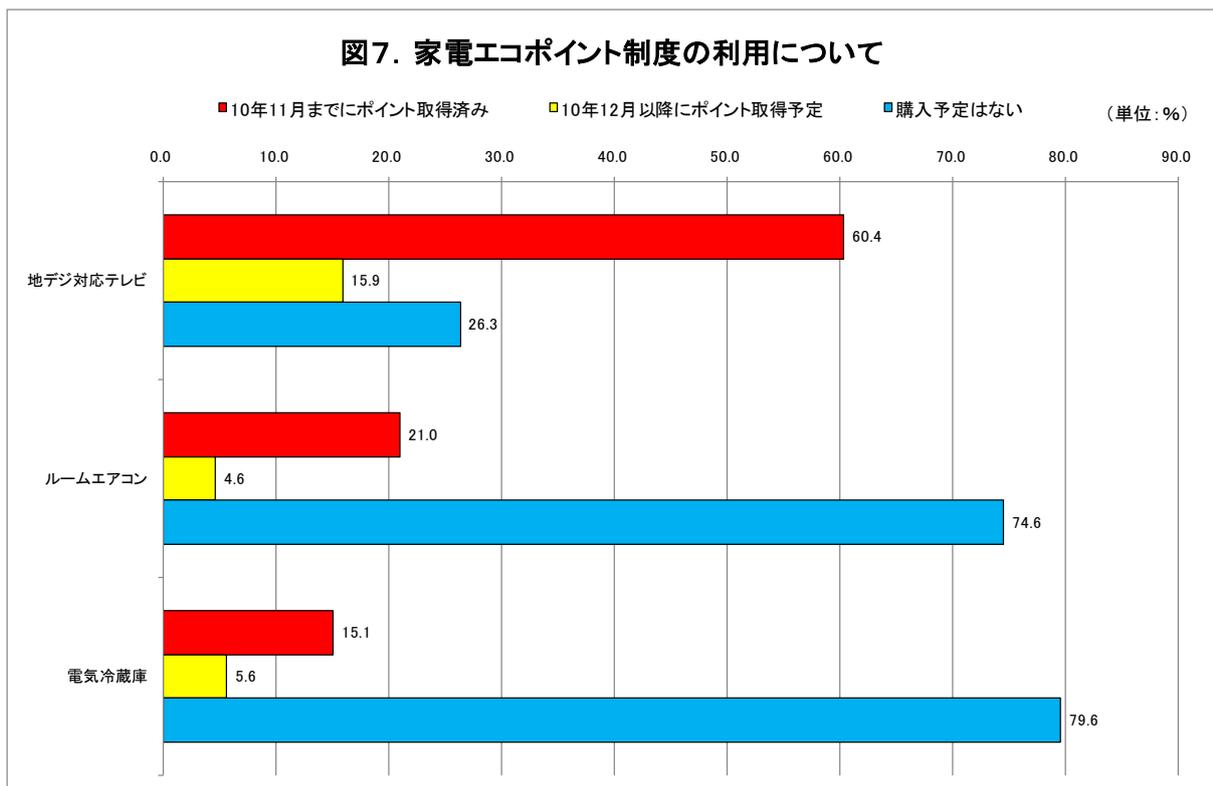


【特別項目】

家電エコポイント制度の利用状況について

…「地デジ対応テレビ」を中心に好調も、反動減に注意

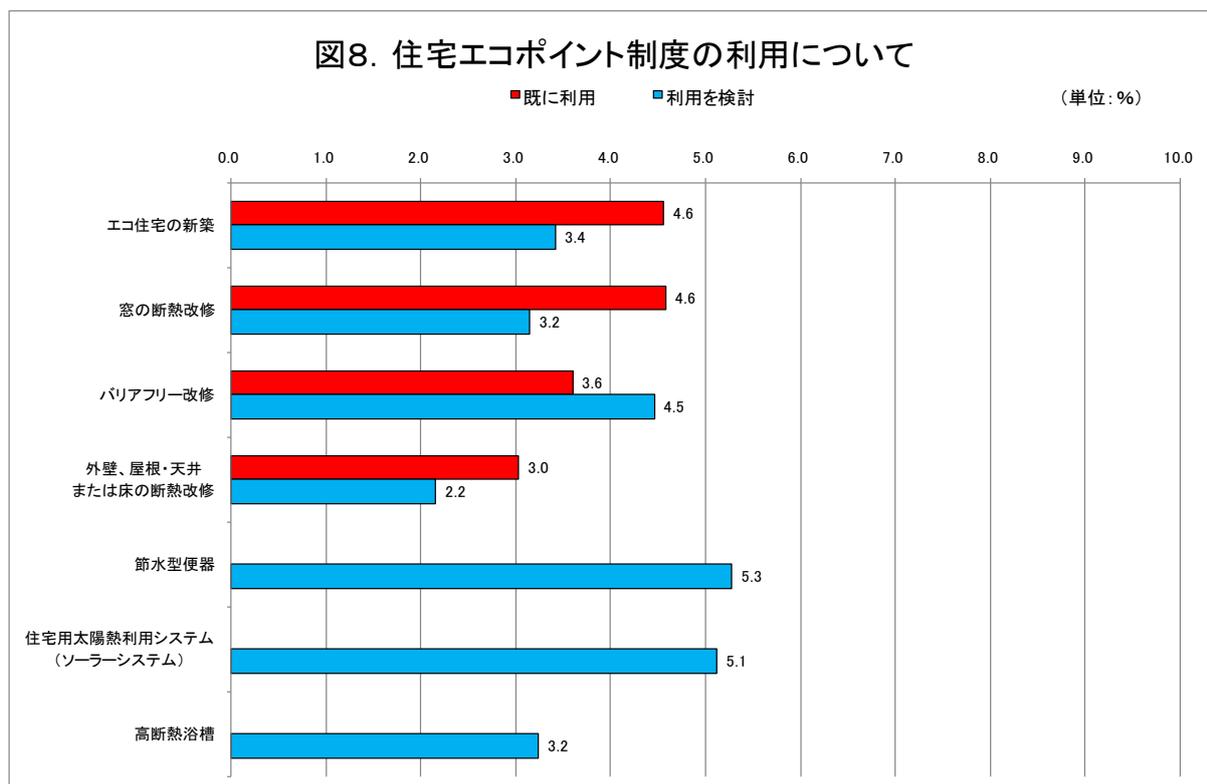
「家電エコポイント制度の利用」で対象の3品目についてそれぞれの利用状況を尋ねたところ、エコポイント半減前の「10年11月までにポイント取得済み」では、**地デジ対応テレビ**（60.4%）が圧倒的に多く、**ルームエアコン**（21.0%）、**電気冷蔵庫**（15.1%）と続いた。**地デジ対応テレビ**は、他の2品よりポイント還元率が高いことや、11年7月の地上波放送終了による切り替え期限が迫っていることなどで、好調となったと考えられる（図7）。また、**ルームエアコン**が2割を超えたのは猛暑の影響が大きかったと考えられる。また、ポイント半減後の「10年12月以降にポイント取得予定」では、**地デジ対応テレビ**（15.9%）、**ルームエアコン**（4.6%）、**電気冷蔵庫**（5.6%）と、どの品目でも3分の1から4分の1に落ち込んだ。実際に県内での、大型小売店販売額（全店ベース）の「家庭用電気機械器具」は、10年11月は駆け込み需要もあり前年比34.8%の大幅増加であったのに対して、同12月は0.4%の減少となった。また、家電エコポイント制度は、今月終了を迎えることから、再び駆け込み需要が見込まれるが、同時に反動減も懸念され、この影響による景気の冷え込みには注意が必要だ。



◆住宅エコポイント制度の利用について…制度改正後の新設項目に期待

「住宅エコポイント制度の利用」について対象の7項目について尋ねたところ、「既に利用」としたのは、**エコ住宅の新築と窓の断熱改修**(ともに4.6%)が最も多く、**バリアフリー改修**(3.6%、**外壁、屋根・天井または床の断熱改修**(3.0%)と続いた(図8)。

10年12月の制度拡大後の7項目で、「利用を検討」としたのは、**節水型便器**(5.3%)と**住宅用太陽熱利用システム(ソーラーシステム)**(5.1%)が多く、新設された項目が上位となったことから、今後の更なる普及と経済活性化の要因となることに期待したい。「既に利用」と「利用を検討」を合わせた場合は**バリアフリー改修**(8.1%)が最も多くなった。



株式会社 しがぎん経済文化センター
森下 剛志